

<p>【イベント名】 第14回 ラテンアメリカテレカンファレンス</p>	<p>【概要】 今回のテレカンファレンスの主題は胃カルチノイド腫瘍で、我々の理解とその取扱い方について検討した。この疾患は一般的で、年々発生率が増加すると同時に、新しい情報も得られている。また、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）で切除された興味深い消化管間葉系腫瘍（GIST）についても議論した。80%以上のカンファレンス参加者が、プログラムは非常に素晴らしく有意義であったと評価した。今回は7ヶ国、15施設を接続した。</p>
<p>【期日】 2018.03.01</p>	
<p>【会場】 コスタリカ ガストロクリニック（コスタリカ）、アレマナ病院（チリ）、チリ・カトリック大学（チリ）、チリ大学（チリ）、コスタリカ大学（コスタリカ）、ポゴタ・ザビエル大学（コロンビア）、メキシコ国立医学・栄養センター（メキシコ）、シャープマサトラン病院（メキシコ）、フライ アントニオ アルカルデ市民病院（メキシコ）、メキシコ癌研究所（INCan）（メキシコ）、ブラジル癌研究所（ブラジル）、カスカーフェル胃腸病院（ブラジル）、ミナスジェライス連邦大学（ブラジル）、大阪国際がんセンター（日本）、九州大学病院（日本）</p>	
	
<p>大阪国際がんセンターからコメントするDr.上堂（中央）。</p>	<p>メキシコ国立医学・栄養センターの会場の様子。</p>
<p>撮影場所：大阪国際がんセンター</p>	<p>撮影場所：メキシコ国立医学・栄養センター</p>
	
<p>提示された内視鏡動画。</p>	<p>モニターに写される接続施設。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>ブラジル癌研究所の会場の様子。</p>	<p>テレカンファレンスはカジュアルな雰囲気ですべて終了しました。</p>
<p>撮影場所：ブラジル癌研究所</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>